

生涯学習と放送大学 —全国一の通信制大学—



随 筆

西 原 浩*

Life-long Learning and The Open University of Japan

Key Words : Life-long Learning, The Open University of Japan,
Broad-casting lecture

1. はじめに

大阪大学を2001年3月に定年退職したのち、福井工業大学で1年間お世話になり、それから放送大学に移り、そして同大学大阪学習センター所長を6年間務め、2008年3月に定年退職した。放送大学は生涯学習を目指す学部と大学院を持つ文部科学省と総務省直轄の通信制大学であり、大阪大学などの大学とはいろいろな点で異なっており、戸惑うことも多々あったが、学習方法などはかなり自由であり、その点では大変ユニークな大学である。生涯学習は云われて久しいが、本協会会員にとっても関心の高いテーマであると思われるので、生涯学習に関する全国一の通信制大学である放送大学について概要を紹介してみたい。図1は放送大学本部の建物である。

2. わが国の生涯学習施策

昭和30年代ごろから文部省は生涯学習を推進し、多くの大学に生涯学習センターを設置した。放送大学は、国民に等しく生涯学習の機会を提供するためにラジオとテレビ放送を通して授業を各家庭に配信するために1981年に文部省と総務省によって創設された大学であり、1985年の学生開始以来25年経過しており、これまでに95万人もの学生が学び、4万1千人を超える卒業生を送り出している。

放送大学は、特別な学校法人である私立学校であ



図1 放送大学本部の建物（千葉市美浜区幕張）

る。遠隔教育、生涯教育の公開大学として国際的にわかりやすい大学名とするため2007年に英語の名称をThe Open University of Japan (旧称The University of the Air) に改めた。

3. 放送システムと番組制作

放送大学は独自の放送局をもっており、毎日朝5時から夜25時まで日曜祭日問わず毎日終日放送している。1週間に学部約300科目、大学院約70科目の授業を届けている。

図2は放送送信と受信システムを示したものである。関東地区のように東京タワーからの電波が届くところでは地上波で受信することができ、昨年から地上デジタルテレビ放送で届けられている。しかし



*Hiroshi NISHIHARA

1937年8月生
大阪大学大学院工学研究科後期課程 通信工学専攻 (1965年)
現在、大阪大学名誉教授 工学博士 光エレクトロニクス
TEL : 06-6855-5323
FAX : 06-6855-5323
E-mail : bpasy608@tcct.zaq.ne.jp

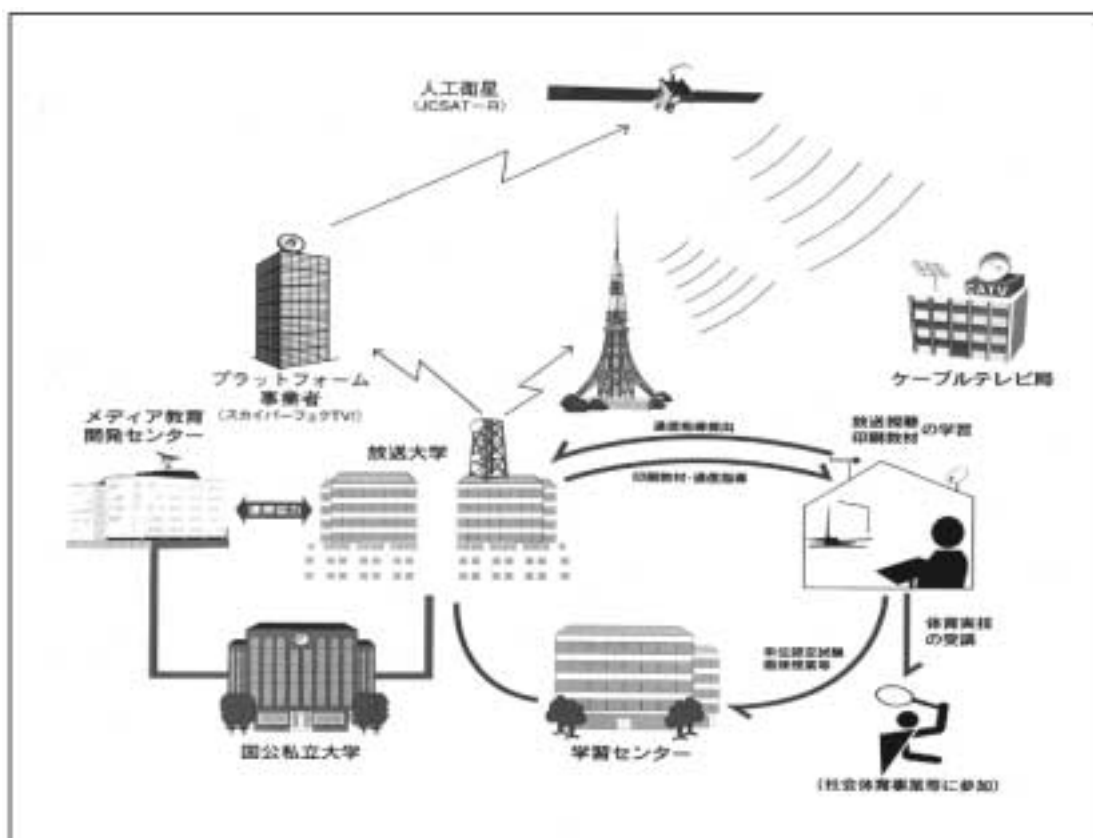


図2 放送大学の放送システム

関東地区以外は、CS（通信衛星）から電波を受けるか、地域のケーブルテレビCATV会社からケーブルを通して配信されている。ちなみに関西の場合、ケーブル会社はジェイコムが請け負っている。視聴料は無料である。

もう一つの視聴法は、学生が所属する学習センターおよびサテライト（全国で57箇所ある）に備え付けられているテープをその視聴室で視聴することができる。また一定期間自宅に借りて帰ることもできる。しかしながら、技術の進歩は目覚しく、近年インターネットが普及し、オンデマンドでいつでも視聴できるので、学生にとっては便利である。大学としては学生へのサービスを考えると、インターネット配信をしたいところであるが、“放送大学”という名前がついてしまっているので、放送をやめて全部をインターネット配信するわけにいかず、悩ましいところである。最近設立されている通信制大学の多くはインターネット配信を行なっている。実はインターネット配信に踏み切れないもう一つの理由があり、それは映像の著作権の問題である。わが国で

は、教育目的であっても映像の著作権処理が非常に厳しい。そのため、放送コンテンツとして著作権をクリアしてもそれをそのままインターネット配信はできないのである。ちなみに現在インターネット配信（ストリーミング）している科目数は、ラジオが77科目、テレビが6科目である。

番組制作は、幕張本部にある専用スタジオで制作される。放送授業科目を制作する先生方は大抵はスタジオ作業には素人であることが多い。私も1科目「光電子技術とIT社会（04）」を制作したが、テキスト執筆とテープ録画でほぼ2年間かかった。いったん制作されたテープ（45分間、15回分（15週分））は4年半（9学期）放送に利用される。一つの放送授業科目を制作することはかなりの労力と経費が要る。放送授業には、本学の教員約80人に他大学の一流教授、准教授を含めて約1,000人の講師が関わっている。

4. カリキュラム

学部は教養学部のみであり、3つのコース（6つ



図3 放送授業「現代の国際政治(08)」
(高橋和夫教授)の1コマ

の専攻)がある。

生活科学コース (生活と福祉専攻、発達と教育専攻)

産業・社会コース (社会と経済専攻、産業と技術専攻)

人文・自然コース (人間の探究専攻、自然の理解専攻)

このうち、生活科学コースを学ぶ学生数が最も多く、産業と技術専攻や自然の理解専攻などいわゆる理系を選ぶ学生数はそれに比べると少ない。

大学院は文化科学研究科の文化科学専攻の中に4つのプログラムが設けられている。

総合文化プログラム、政策経営プログラム、教育開発プログラム、臨床心理プログラム

○入学資格と単位修得

2学期制であり、年2回、4月と10月に入学と卒業をすることができる。

好きな科目だけを学ぶ選科履修生(1年ごと更新)と科目履修生(半年ごと更新)と卒業を目的とする全科履修生とがあり、前者は15歳から、後者は18歳(高卒)から入学できる。入学試験はない! 入学資格は「学びたいという意志」だけである。卒業には通学制の大学と同じ124単位修得が必要である。在籍は10年間有効である。

大学院は入学試験があり、修了には30単位修得と修士論文の合格が必要である。10代から80代の7万9千人の学部生、6,300人の大学院生が日本全国に在籍している。

○学生数などの統計

どの大学も現在は入学者が減っているが、放送大学も平成15年頃を境に減少している。放送大学の学生は30代、40代が最も多く、中高年層は減少しているわけではなく、やはり少子化の影響は20代の減少に効いている。これまで短大卒業後、放送大学に編入学された方が多かったが、近年短大がなくなり、4年制大学になったことが大きいようである。

○試験

単位認定試験は各学期毎に全国の学習センターで実施される。そのため学生はいずれかの学習センターに出向かなければならない。大学入試センター試験のようにマークシート方式か、あるいは記述方式で全国一斉に実施される。



図4 筆者の面接授業
「身の回りの光・デジタル技術」の1コマ

5. 面接授業(スクーリング)

カリキュラムは放送授業と面接授業、およびオプションであるが希望者は卒業研究とで卒業に必要な単位を取得する。面接授業(2日間連続、約11時間)は各学習センターで特有の授業が企画実施され(大阪では年間約60科目)、学生の人気は高い。学生はどの学習センターで受講してもよいという自由度がある。図4は筆者が行った面接授業「身の回りの光・デジタル技術」の様子であり、内容は最近のエレクトロニクス技術の紹介であるが、私はできるだけ部品や製品の実物を見ていただきながら、いろいろな演示実験をして理解を深めてもらっていた。

放送大学生の特筆すべきことは、学生が非常に熱心であるということである。授業は教室の一番前の

席から順番に詰まっていくし、質問は良くするし、もちろん私語や居眠りはない。講師には放送大学の専任教員はもちろんのこと、他大学から多くの先生方にご支援をいただいている。大阪大学のいろいろな研究科から毎年20人位の先生方にご出講願っている。そのような先生方が異口同音に言われるのは、「面接授業は長時間（約11時間）なので疲れるが学生が熱心に聴いてくれるのでうれしい」との感想である。この点は通学制の大学生は見習うべきであろう。

6. 大阪学習センター

学習センターは、前述したように、各都道府県ごとに1個ずつ、全国で50箇所にあります。大阪学習センターは現在は教育大学天王寺分校のキャンパス内にある。7階建ての校舎で1階から5階までを教育大学の第Ⅱ部が使っており、6階と7階を大阪学習センターが使用している。もともとのスタートのときは、大阪大学中之島医学部の建物のなかにあったが、阪大の吹田地区移転に伴い、交通のより便利な現在の天王寺地区に移った。初代所長は片山俊名誉教授（基礎工学部）、2代目所長は俣野彰三



図5 大阪学習センターの建物

名誉教授（人間科学部）、3代目が私であり、現4代目所長は柏木隆雄名誉教授（文学部）である。所長は大阪学習センター自身の管理運営の仕事の上に、月1回の本部（幕張）での教授会出席、近畿地域にある学習センター（滋賀、京都、奈良、兵庫、和歌山、大阪）の拠点センターとしてのまとめ役の仕事もあり、結構多忙である。学習センターは学生にとっては、面接授業を受講する場所、年2回の単位認定試験を受験する場所に加え、テープを視聴する場所、仲間と触れ合う場所、サークル活動をする場所であり、大変重要な意味がある。大阪学習センターには21のサークルがあり、そこで新しい出会いをし、生きる喜びを見出し、学びと趣味に励んでいる方が多い。

7. むすび ―生涯学習―

放送大学学歌の歌詞に次のような言葉がある。

「生きるとは学ぶこと 学ぶのは楽しみ」

「生きるとは知ること 知ることは喜び」

放送大学では各年代の方々が学んでいるが、共通することは生涯学習を自ら実践しているということである。学ぶ意欲のある方は誰でも入学が認められ、学生になれる。実は私も退職してこの4月から放送大学に入学し、これまでに学ばなかった歴史、都市計画や地球環境の授業を学んでいる。他人に強制されず、自らの考えで自分の好きな分野で、自分のやりたいように、知的活動をすることができる。勉強とは本来このようなものであるはずである。いまの教育システムは必ずしもこのような自由さがない。

世界は難しい時代に入りつつある。昔学んだ知識だけで判断することが困難な時代になりつつある。われわれはそのことを認識して、持続可能な知識である21世紀の「教養」を身につけたいものである。放送大学はそのような生涯学習に意欲のある方への一つの選択肢であろう。